

「多様な防災教育の実践～生徒の防災意識の向上～」

令和2年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

拠点校 高知県立安芸中学・高等学校

1 拠点校の取組

（1）拠点校の目標

①学校の概要



安芸のアルファベット
トAに太平洋の波しぶ
ぎ、高等学校の高をデザ
イン化したものです。

本校は高知市から東へ約40km、車で約1時間移動した沿岸地域にあり、黒潮流れる壮大な太平洋を眺望できる海岸から100m、標高8.6mの場所に立地している。

令和2年度の生徒数は420名（中学生168名、高校生252名）を有し、県立安芸中学校を併設した中高一貫校である。学級数については、中学校各学年2クラスの合計6クラス、そして、高校は第1学年普通科2クラス、第2・3学年各普通科3クラスの合計8クラス、中・高合計14クラスの学校である。

今年で創立120年目の歴史と伝統を誇り、文武両道の精神に基づき、恵まれた環境と充実した施設・設備のもと、時代の変化に対応した教育を推進している。また、学校全体を一つのチームと考え「チーム安芸」を掲げ、県東部の拠点校として「高い次元での文武両道の実現」を目指している。

令和5年度には、安芸桜ヶ丘高等学校と統合し、新たな県立安芸中・高等学校として開校を予定している。

②背景・課題

「高知県防災マップ」によると、南海トラフ地震（最大クラス）浸水深3.0～5.0m（発生頻度大浸水深0.3～1.0m）、津波浸水予測時間（到達時間40～60分）となっている。さらに、津波被害では安芸市内中心部が広範囲に浸水すると想定されている。そのため、本校では、南海トラフ地震に備えて、津波予想最大14.9mに対して、北舎屋上（屋上まで23.5m）への垂直避難として、北舎屋上へ向かう避難訓練を毎年3回行ってきた。また、昨年度は、地元消防署の方々のお力を借りての火災訓練を実施した。この訓練では、避難場所はグラウンドとし、生徒や教員が冷静沈着な態度で行動できていたのか、後で消防署の方に講評をしていただいた。その後、各クラス代表生徒による消火器を用いての消火訓練や全校生徒がテント内における視界のきかない煙の中での避難行動を体験することで、煙の特性や危険性を学んだ。

ここ数年、津波に対しての垂直避難訓練を行っており、概ね生徒への定着は浸透している。しかし、「防災教育」をより一層充実させるためには、教科等の横断的な視点で、「防災教育」に関する教職員の共通理解及び組織化を体系的に育てていくことが重要であり、各教科等での実践研究を重ねる必要がある。授業実践を通して、登下校中の避難場所の確実な確保や家庭での避難経路の確認等、生徒とともに保護者への「防災教育」に対する意識の向上を図る必要を感じている。

③目標

個々の教職員が地震・津波といった自然現象に関する確かな基礎知識と防災意識を持ち、防災教育を行うことを目指す。その防災教育に際しては、生徒たちが自宅や登下校中など様々な状況を想定した多様な防災教育に取り組み、自ら考えて行動する力を養う。また、生徒がいかなる状況下でも「自らの命を守りきる力」、そして「地域社会の安全に貢献できる力」を習得できるよう、防災教育に主体的に取り組む態度の育成を目標とする。

【目標達成を目指した取組のポイント】

- 中核となる教職員（学校安全担当教員）の位置付けと役割の明確化
- カリキュラム・マネジメントの考察（各教科での防災の視点を取り入れた授業の実施、年間計画の見直し、他教科との連携等）
- 地域の防災マップの作成等を通し、生徒が自宅周辺及び登下校中の防災について考える取組
- 地域と連携した避難訓練の実施

（2）安全教育の充実に関する取組

【多様な防災教育の実践～生徒の防災意識の向上～】

〈1〉実践的な防災避難訓練の実施

①新入生防災避難訓練－No. 1（新入生高校1年生を対象とした垂直避難訓練）

6月16日（火）放課後に、新入生を対象とした「津波避難訓練」を実施した。本校では、南海トラフ地震に備えて、津波予想最大14.9mに対して、北舎屋上（屋上まで23.5m）への垂直避難としている。



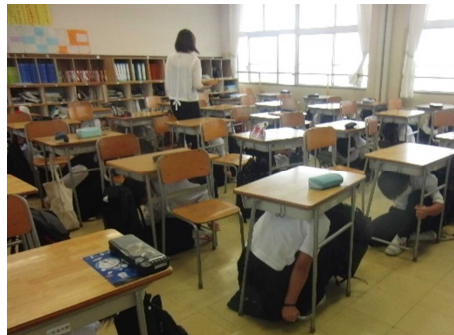
②新入生防災避難訓練－No. 2（新入生中学1年生を対象とした垂直避難訓練）

6月26日（金）LHを利用して、新入生を対象とした「垂直避難訓練」を実施した。地震を想定して、地震発生時における安全確保、津波発生時の避難場所である北舎屋上へと向かった。地震による津波が発生した場合、垂直避難、避難経路確認及び集合方法などを主な訓練内容とした。



③第1回防災避難訓練（シェイクアウト訓練活用）

9月4日（金）高知県南海トラフ地震対策推進週間にあわせ、朝 SH 時にシェイクアウト訓練を実施した。地震発生時の一番初期の対応【①DROP!=姿勢を低く】、【②COVER!=頭を守り】、【③HOLD ON!=動かない】という安全を確保する行動を今後の行動に活かせるように徹底させたい。



④第2回防災避難訓練（垂直避難訓練）

12月11日（金）地震発生による津波に備えての全校生徒及び教職員の垂直避難訓練と防災意識の啓発をねらいとし、北舎屋上への避難行動について訓練を行った。



〈2〉防災学習の授業等

①「公開授業」高校1年生「家庭基礎」

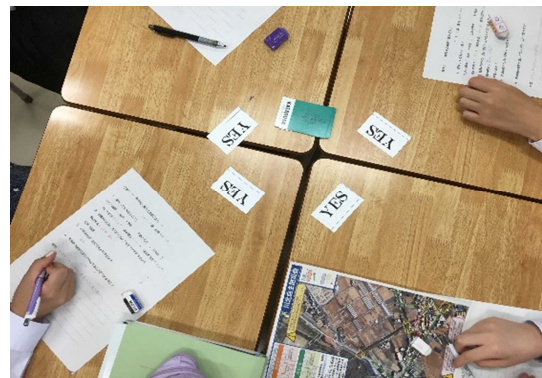
10月8日（木）3限目・4限目「家庭基礎」の時間に「住まいの安心・安全」をテーマに公開授業を実施した。

自分の住んでいる地域の避難所を地図上から確認し、どのような避難行動がとれるかについて、グループ内で意見交換をした。また、クロスワードカードゲームを使って、避難所運営についてどのような問題発生が考えられるかなどについて意見を出し合った。地域が抱える課題解決とともに避難所運営では、少数派の意見の吸い上げが大切になることや日頃からの地域のつながりが欠かせないことを知ることができた。

○自分の住む地域の被害予測を確認し、避難行動について意見を出し合った。



○クロスワードゲームを行い、避難所運営で想定される事柄について考察した。



○災害ボランティアについて学習し、高校生として出来ることは何かを話し合った。



②「防災授業」中学1年生

11月27日（金）6限目・7限目「LH」の時間に「登下校中に南海トラフ地震が発生した場合の対応を学ぶ」をテーマに防災授業（フィールドワークを含む）を実施した。

専門的な視点で南海トラフ地震についての講話をしていただいたので、正しい知識を学ぶことができた。また、各自に資料が配布されたり、動画なども活用されたりし、わかりやすい内容であった。実際に、フィールドワークを行ったことで、普段通っている通学路の危険箇所を確認し、いざというときに備えておくことができた。

○高知県危機管理部南海トラフ地震対策推進 安芸地域本部のみなさん



○フィールドワーク（5班に分かれて学校周辺の5つのルートを回った。）



○班別振り返り



○各班代表者による発表



県立安芸中学校防災授業 スケジュール案

日時：令和2年11月27日（金）14:20～16:10
対象：県立安芸中学校1年生（約60名）

内容

- 14:20～14:25 授業開始、先生方による授業の説明
- 14:25～14:30 安芸地域本部自己紹介、本部長あいさつ
- 14:30～15:10 南海トラフ地震について学習（座学）、7限目に行うフィールドワークの説明
- 15:10～15:20 休み時間、校門前へ移動
- 15:20～15:50 フィールドワーク
- 15:50～16:05 フィールドワークの振り返り、感想、まとめ
- 16:05～ 先生方にパトナタッチ、授業終了

県立安芸中学校通学路安全点検：①紫ルート



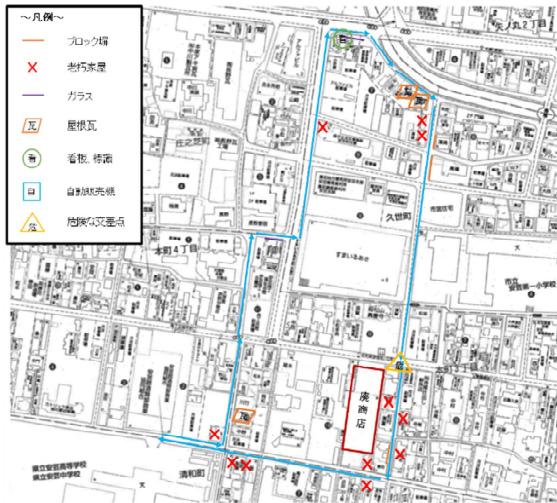
県立安芸中学校通学路安全点検:②オレンジルート



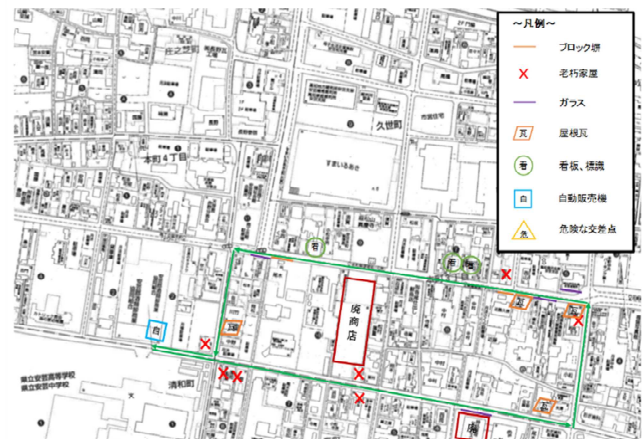
県立安芸中学校通学路安全点検:③赤ルート



県立安芸中学校通学路安全点検:④青ルート



県立安芸中学校通学路安全点検:⑤緑ルート



(3) 安全管理の充実に関する取組

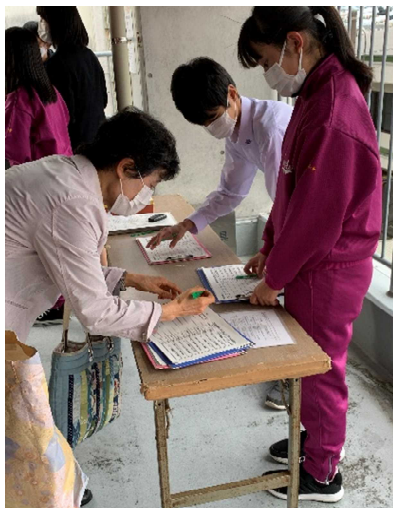
【地域における避難訓練】

①安芸市津波避難訓練

10月18日(日)地元の自主防災組織と繋がり、地域の一斉避難訓練に起案の段階から参画する生徒もいた。

安芸市保健所や地域の自主防災組織を運営している方から、自主防災組織についての学習や避難所での衛生について講習を受け、10月(8月の安芸市一斉防災避難訓練は中止)の一斉避難訓練の呼びかけや避難所での衛生環境(マスクの取り扱いや手指消毒の正しいやり方)の保持を講習することで正しい理解を深めようと活動した。

○避難所開設での受付と受け入れ時の検温と手指消毒作業 ○講習会の説明



○シェイクアウト訓練と避難所倉庫の確認作業



○川向地区の地区防災組織の皆さん



(4) 成果と課題

<成果>

①中核となる教職員（学校安全担当教員）の位置付けと役割の明確化

総務情報部内で、総務情報部長を中心とした学校安全担当教員（中学1名、高校1名）を配置した。また、防災分科会（教頭、総務情報部長、学校安全担当委員2名）を形成し、現在実施している「防災学習」やこれから実施予定の「防災学習」について、協議を重ねた。少人数の利点を活かして防災分科会が容易に開催できたことや協議事項に関しても様々な観点から意見等が出され、建設的に物事を進めることができた。

②カリキュラム・マネジメントの考察（各教科での防災の視点を取り入れた授業の実施、年間計画の見直し、他教科との連携等）

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な学校行事等が中止・延期になり、学習形態にも多大な影響があった。中高一貫校の6年間のスパンで各学年のLH時に行われる「防災学習」を考察できたことは大変有意義であった。

③地域の防災マップの作成等を通し、生徒が自宅周辺及び登下校中の防災について考える取組

「家庭基礎」で学習した地域のハザードマップの活用方法等、そして「防災授業」で行った学校周辺の通学路点検フィールドワークを通して、災害時における適切な行動と地域との連携を図りながら積極的に行動できる実践的な態度の習得に繋がった。

<課題>

○防災教育に関する計画全般の整備・改善

「防災学習」に関して、定型的な場面での避難訓練はできているものの、そうでない場面での避難訓練や自ら考えて行動し、いつでもどこにいても自分の身を守ることができる「防災学習」を充実させることが重要である。このことが、登下校中や保護者のいない場面の避難訓練行動といった自ら判断を必要とされる場面で適切な行動を取れる生徒の増加に繋がるからである。また、本校は避難所に指定されていないが、緊急避難場所（北舎屋上）に指定されているため、地域住民の方々が一時的に避難してくることも予想される。地域の課題を理解し、緊急避難場所における行動について考えることを視野に入れた取組も不可欠である。従って、中高一貫校の6年間を見据えた防災教育の充実が急務であり、各教科での防災の視点を取り入れた授業の実施、他教科との連携等を含む年間計画の見直しを視野に入れてのカリキュラム・マネジメントの再考察が必要である。

2 事業の成果と課題

<成果>

○地域と連携した避難訓練の実施

高知県危機管理部南海トラフ地震対策推進安芸地域本部と連携することで、専門的な観点から「防災学習」についてのアドバイスをいただく良い機会となった。今後も継続して連携しながら、多様な防災教育の実践に向けて取り組んでいきたい。また、地元の自主防災組織と繋がり、地域の一斉避難訓練に起案の段階から参画する生徒もいるなど、生徒自身が積極的に防災意識の向上に努めた。さらに、本年度は生徒会が中心となり、「防災委員発足」についての提案があった。「防災活動」に向けて着実に核となる生徒が育ちつつあることは頼もしい限りである。

<課題>

○地域や関係機関等との連携推進

防災分科会を定期的で開催し、ホーム担任による多角的な観点で行事計画を協議できたことは大変有益であった。また、防災教育実践委員会のアドバイザーとして高知県危機管理部南海トラフ地震対策推進安芸地域本部の方々と連携をし、防災意識アンケートの結果に対して専門的な観点から、本校の防災学習に対しての方向性を示していただいた。今回地域の関係機関と協議する機会を得ることができたわけであるが、今後はこの繋がりを継続すると共に、防災学習や防災活動を工夫しながら中高一貫校の6年間を見据えた防災教育を充実していかなければならない。

3 今後の取組

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な学校行事等が中止・延期になり、学習形態にも多大な影響があった。当然我々は自然災害をはじめとする様々な災害を踏まえて「防災教育」を進めていくわけであるが、このコロナ禍における「防災学習」「防災活動」をいかに安全安心に進めるかということ念頭に置かなければならない。今後は高知県危機管理部 南海トラフ対策推進安芸地域本部とより一層

連携し、6年間の系統だった防災学習内容に向けた取組を構築すると共に、生徒会の「防災委員」を中心とした防災活動を支えるべく体制を整える。また、本校PTAと協力しながら、保護者に対して「防災教育」の啓発を促す等の取組を構築する。